

3 あのか社の名も地名から

企業名で最も多いのは創業者に由来するものだ。トヨタやホンダはその代表だが、ブリヂストンやサントリーも創業者の姓である石橋や鳥井に因んだ社名であることは知られている。薬局チェーンのマツモトキヨシなどは創業者の名である「松本清」そのままだ。ただ、日本には、サッポロビールや神戸製鋼など社名が地名に由来する企業も多い。さて、次のうち、地名に由来した名の企業はいくつあるだろうか。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| ① 吉野家（牛丼） | ② 崎陽軒（シウマイ） |
| ③ すかいらーく（ファミレス） | ④ エバラ食品（焼き肉のたれ） |
| ⑤ 亀田製菓（柿の種など） | ⑥ ドトールコーヒー |
| ⑦ タカラトミー（玩具） | ⑧ オムロン（電子機器） |
| ⑨ 大和ハウス（住宅） | ⑩ ミズノ（スポーツ用品） |

これらの社名は、すべて地名に由来している。

① **吉野家**——創業者の松田栄吉が大阪府西成郡吉野（現大阪府福島区吉野）の出身。

② **崎陽軒**——「崎陽」は長崎の別称、創業者の久保久行が長崎出身。

③ **すかいらーく**——す・か・い・ら・く（skyark）は英語でひばりのことだ。前身の食品会社が東京都北多摩郡保谷町（現西東京市）のひばりが丘団地で開業したと、一号店が開店した府中市の市の鳥がひばりであったことに由来。

④ **エバラ食品**——発祥の地である東京市荏原区（現品川区）に由来。

⑤ **亀田製菓**——新潟県亀田町（現新潟市）の農民の共同出資による亀田郷農民組合が母体。

⑥ **ドトールコーヒー**——創業者の鳥羽博道がコーヒーについて学ぶためにブラジルのコーヒー農園で働いていたときに住んでいたド・トール・ピントフェライス通りに由来。

⑦ **タカラトミー**——タカラとトミーの合併による社名だが、タカラは創業地の東京都葛飾区宝町と玩具が子どもの宝であることに由来、トミーは創業者の富山栄市郎に由来。

⑧ **オムロン**——京都市内の御室（おむろむ）に本社を置いたのでオムロン。

⑨ **大和ハウス**——創業者の出身地である奈良県の旧国名「大和」に由来。「やまと」ではなく「ダイワ」としたのは大いなる和をもって経営に当たりたいという主旨からだ。

⑩ **ミズノ**——登記上の社名は美津濃。創業者の水野利八が「水野」の名称を避け、出身地である岐阜県の旧国名「美濃」に津を当てた。

ジュール・ベルヌの『十五少年漂流記』は、何度もテレビドラマやアニメになり、今でも多くの子どもたちに読まれている人気の冒険小説である。無人島に漂着した15人の少年たちが、そこで自給自足の集団生活を始めるが、彼らは、島内の各所に落とし穴の森、沼の森、飛び石の川、北岬、南岬、あらし海岸などの名前を付ける。つまり地名である。

古来、人が仲間にある場所を伝えようとする場合、その場所を特定するために、仲間同士で共有する言葉を作ったのが地名を起こりである。地名はまず目印にしやすい山や川、森や野などに対し、その場所がイメージできるよう、地形や植生など見たまんま、そのまんまの特徴から名付けることが多かった。これを自然地名という。

カルデラ火山の阿蘇はいくつかの山々で構成されているが、そのうち、火口のある中央部に位置するのが**中岳**、最高峰が**高岳**、麓から烏帽子の形に見えるのが**烏帽子岳**、猫が伏しているように見えるのが**根古岳**、どの山も見たまんまがその山の名になっている。これは阿蘇に限ったことではなく、中岳、高岳、烏帽子岳という名の山は各地に見られる。例えば、北アルプスを代表する二つの名峰槍ヶ岳と穂高岳の中間にある山は**中岳**、北アルプス南部の乗鞍山系にも**烏帽子岳**や**猫岳**がある。**烏帽子岳**（**烏帽子山**）という名の山は、『日本山岳ルーツ大辞典』によると全国各地の75カ所があり、日本で2番目に多い山の名だ。烏帽子のよう

に山頂が尖った山に名付けられることが多い。槍ヶ岳や劔岳も山頂が尖っていることを槍や劔に喩えている。逆に、丸まった形の山に多い名は**丸山**や**円山**だ。全国の95カ所があり、実はこれが山の名として日本で最も多い。茶臼山や飯盛山という名もやはり丸まった山の形を茶臼や飯盛りに喩えたものだ。日本百名山には**駒ヶ岳**と呼ばれる山が4座あるが、駒とは馬のことで山容が馬に似ていたり、山にできる雪形が馬に見えたりすることが語源である。双子岳や二子山、坊主山や毛無山もその名を見ると、どのような山なのか分かりやすい。ずばりそのまま**禿岳**や**羽毛山**という名の山もある。

川の名も同じだ。都内を流れる隅田川は、江戸時代には**大川**と呼ばれていた。「大きな川」という意味である。大阪市内を流れる旧淀川、仙台市内を流れる広瀬川、会津盆地を流れる阿賀野川もかつては大川と呼ばれていた。国土交通省河川局の統計では、大川と呼ばれる川は全国の60カ所に見られる。なお、隅田川は**荒川**から分流しているが、本流の荒川という名は、「荒ぶる川」が語源であり、幾度となく洪水を繰り返してきた川だ。荒川・荒谷川・荒沢など、**荒**が名に付く川は全国に100カ所以上に見られる。浅川・深川・早川・細川・石川・滝川・湯川など、全国各地に見られるこれらの川の名も見たまんま、そのまんまだ。

あと、多いのは流域の土地の名で呼ばれる川だ。**信濃川**・**相模川**・**飛騨川**・**紀の川**・**大和川**・**筑後川**など大河川には旧国名を冠した川が多い。**北上川**・**最上川**・**富士川**・**木曾川**・**長良川**などは流域の地名が語源である。

北を「にし」と呼ぶ沖縄の東西南北

沖縄本島から南西へ約300 kmに位置する宮古島は、年間1

00万人を超える観光客が訪れる美しい島である。島はほぼ直角三角形をしており、南東端に**東平安名**（あがり・へんな）岬、

北西端に**西平安名**（いり・へんな）岬がある。沖縄では東を「あがり」、西を「いり」という。その語源は、あがり（東）は太陽が上がる方角、いり（西）が日の入りの方角の意味であり、

そのままで分かりやすい。「へんな」は蛇のように細いという意味で、どちらも海に細長く突き出た岬で、その独特の景観は宮古島の観光スポットになっている。

イリオモテヤマネコの棲息地として知られる八重山群島の**西表島**は、原音では「いりうむてい」といい、八重山の中心の石垣島や竹富島から見て西にあることが語源とされている。

なお、鹿児島県の種子島に**西之表市**があるが、こちらは西に向かって開かれた種子島の表玄関という意味だ。西之表は西表島ほど一般の人には知られていないため、テレビニュースなどでアナウンサーが「にしのおもて」と発音すると、しばしば視聴者から「いりおもて」の間違いじゃないのかと問い合わせがあるという。

沖縄本島の東約400 kmに南北二つの**大東島**がある。「台風□号は南大東島付近の海上を



西に向かって……」などとテレビの台風情報でよく耳にするあの島である。今では、大東島と書いて「だいとうじま」と、いたって普通の読み方をしているが、本来は「うふあがりじま」であり、東の海の彼方にある島という意味だ。他にも、沖縄県には**あがりやま**（東山）、**あがりはま**（東浜）、**いりじま**（西洲）などの地名がある。

ちなみに、一般的な日本語の**ひがし**（東）は、太陽が昇る方角を意味する「日向かし」が**ひむがし**↓**ひんがし**↓**ひがし**と転訛し、**にし**（西）は太陽が去るといふ意味の「去にし」の**い**が脱落して**にし**になった。ひがしとにし、沖縄の言葉の**あがり**といりは、どちらも語源は日の出と日の入りに由来する言葉なのだ。英語のイースト（EAST）とウエスト（WEST）も、やはり日の出と日の入りの方角を意味するケルト語などの古語を由来とする説がある。アジアであれ、ヨーロッパであれ、古来より、人はどこに住んでも、東と西の方角を太陽の動きから捉えていたわけだ。

そうなると当然、北と南という言葉の語源が気になってくる。しかし、日本語のきた（北）みなみ（南）については諸説あるものの、はっきりした語源は不明らしい。沖縄では北のことを「にし」、南は「へー」「ふえ」「はえ」などという。にしの語源ははっきりしないが、北がにしとは紛らわしい。南を意味するへー・ふえ・はえは、春になると吹く暖かい南風のことを本土でも「はえ」と呼ぶが、それが語源のようだ。

沖縄県庁のある那覇市郊外に**南風原町**と**西原町**がある。読み方は南風原が「はえばる」、

現代の地名から日本の古代社会を読み解く

令和の市町村の中にも、千年以上の歴史を持った地名がある。次のうち飛鳥〜奈良時代に起源を持つ地名はどれだろうか。また、それらの地名にはどのような歴史的背景が秘められているのだろうか。

- ① 京都府綾部市
- ② 岐阜県各務原市
- ③ 大阪府四條畷市
- ④ 東京都調布市
- ⑤ 山梨県甲府市
- ⑥ 埼玉県本庄市

〈答えはP75〉

◎ 渡来人が残した地名

京都府綾部市のあたりは、古代には丹波国漢部郷と呼ばれ、有力豪族である漢氏が支配していた。漢氏は5世紀末に朝鮮半島から移住してきた渡来系の氏族で、織物の技術に優れていたことから、朝廷内でも重要な位置を占めていた。漢部郷は江戸初期に綾部と改められるが、その後も伝統的に織物業がさかんで、インナーメーカーのグンゼはこの地より発祥した。

漢氏と同時期に渡来した秦氏も、当時の有力豪族であり、京都の人気観光地の太秦は秦氏が本拠としていた地である。滋賀県の秦荘町（現愛荘町）も、秦氏に由来する地名だ。東京都狛江市は、古代朝鮮の高句麗から渡来した高麗人がその名の由来とされ、埼玉県にはかつて高麗郡があり、現在もJRに高麗川駅、西武鉄道に高麗駅がある。

現在の大阪市の南部にはかつて百済郡があった。古代朝鮮の百済から渡来した人々が多く居住したことが由来であり、現在は百済公園や百済貨物ターミナル駅に百済の名が残る。

また、埼玉県南部の志木市や新座市は、奈良時代に新羅からの渡来人が武蔵国（埼玉県）に移り住み、そこに興した新羅郡が現在の両市の名の由来とされている。

◎ 古代人のものづくりを伝える地名

岐阜県南部に各務原市がある。地元の人か地名通の人でなければ、これをなかなか「かかみがはら」と読めないが、この名は、古代にこの地に鏡作部（かがみつくりべ）がいたことに由来する。鏡作部とは銅鏡などの鏡を作る職人集団のことである。大化の改新の頃までは、「□□部」と呼ばれる様々な特殊技能を持った職人集団が朝廷内の仕事を分掌していた。鏡作部以外にも、埴輪を製作した土師部（はじべ）、青銅器や鉄器を製作した鍛冶部（かぬちべ）、勾玉を製作した玉造部（たまつくりべ）などその種類は100以上にのぼる。

日本最大の露天風呂があることで知られる山陰の名湯玉造温泉（鳥根県松江市）は、近く

現代の地名から日本の中世社会を読み解く

武士が政権を握った鎌倉〜室町時代は、国内の商工業や交通が著しく発展する。そのような日本の中世社会の姿を現代に伝える地名は次のうちどれだろうか。

- ① 茨城県取手市
- ② 三重県四日市市
- ③ 岐阜県関ヶ原町
- ④ 山口県下関市
- ⑤ 新潟県直江津市
- ⑥ 静岡県御殿場市

〈答えはP 90〉

○ 武士の館に因んだ地名

取手市は茨城県の南部、利根川沿いにある。取手という漢字から、この地方都市にはいったいどのような扉の「とって」があるのだろうかと訝かる方がおられるかもしれないが、「とりで」という地名の由来と取手という漢字表記にはまったく何の関係もない。「とりで」に漢字を当てるならば、本来は「砦」が正しい。

鎌倉時代に入り、武家社会が形成されてゆくが、武士は所領である農村に住んでいた。彼らの住居は、外敵に備えるため、高い塀や堀に囲まれ、館や屋敷と呼ばれていた。南北朝〜

戦国と戦乱の世が続くと、武士の館は大きく堅固になり、城砦化が進む。そんな頃、大鹿太郎左衛門という武士が砦を築いたことから「とりで」という地名が興り、江戸時代に入り、この地が宿場町として整備されると、砦を嫌って「取手」に改められたという。秋田県大館市や千葉県館山市も、かつて有力な武士の館があったことが由来の地名だ。

沖縄県には**豊見城**、**中城**、**玉城**など、城を「グスク」と読む地名が多く見られるが、グスクは城砦を意味する沖縄の言葉である。12〜16世紀頃の沖縄は「グスク時代」と呼ばれ、富と権力を手にした豪族たちが各地にグスクを築き、その数は300を超えていたという。

○ 商工業の発達が生んだ地名

・ **一日市**―20カ所・**二日市**―34カ所・**三日市**―52カ所・**四日市**―37カ所・**五日市**―34カ所
・ **六日市**―32カ所・**七日市**―43カ所・**八日市**―61カ所・**九日市**―10カ所・**十日市**―54カ所
三重県四日市市の名は全国的に知られているが、「一日市場」や「一日町」を含めると、右のように同じような地名が全国に約400ほど存在する。これらはかつての定期市の名残りである。鎌倉〜室町時代には農業や手工業が発達し、それに伴って商業がさかんになると、各地で市が開かれるようになった。市では、食料品、生活用品、武具など何でも売られており、最初は不定期に開催されていたのだが、やがて月3回の定期市となった。四日、十四日、二十四日の「四」の付く日に開催されたのが四日市である。室町時代になると、市の開催は

全国の市町村の名によく使われている漢字

市町村名にはどのような漢字が用いられているだろうか。種類ごとの一覧を作成してみた。

谷	沢	浜	江	岡	崎	原	島	野	山	川	【自然系】
15	19	20	20	23	27	42	62	72	74	107	坂・阪
6	6	9	9	9	11	12	13	15	16	17	【文化系】
府	神	部	国	宮	井	戸	城	里・郷	津	田	88
12	13	16	16	17	20	23	25	28	48	88	【比較系】
下	新	西	中	高	北	小	上	東	南	大	79
14	21	31	30	36	35	39	41	47	63	79	【佳字】
福	志	安	良	吉	賀	久	豊	和	富	美	32
10	11	13	14	15	19	19	22	27	27	32	【数字】
六	二	一	四	七	九	十	千	五	八	三	30
2	3	4	6	6	7	8	9	10	21	30	【植物】
菊	柏	桜	葛	柳	栗	桑	竹	藤	木	松	29
3	3	3	4	4	4	4	5	6	29	29	【動物】
鳩	牛	猪	鳥	鷹	魚	龍・竜	鶴	熊	馬	鹿	13
2	2	2	3	3	4	6	6	6	6	13	【その他】
見	白	子	本	平	長	別	内	佐	伊	日	32
15	16	17	18	20	22	22	23	24	25	32	

対象：全国1718市町村（2021年4月1日現在）

○ 自然系の漢字

第2章で述べたように、地名の由来は地形など自然界に起因する場合が最も多い。当然、地名に用いられている漢字も【自然系】の字が多い。全国の市町村名を調べると、最多の漢字は「川」で、唯一100を超える市町村の名に含まれている。川は古来より人間生活と深い関わりがあり、世界各地の古代文明が大河のほとりに発祥したことは、歴史の授業で学習する。人々は農耕のため、利水のために川のほとりに集まり、そこに集落を形成した。川に因んだ地名が多くなるわけだ。

次に多いのは「山」である。都道府県名の漢字としては、**神奈川・石川・香川**など「川」の3県に対し、「山」は**山形・山梨・富山・和歌山・岡山・山口**など6県に付いている。農耕社会では、平地の乏しい山は人々が生活を営むには適地ではない。ただ、山といえは一般的にいわゆるマウンテンを連想しがちだが、県名や市町村名に用いられている「山」は、そのような意味ではなく、小高い丘や森を指して山と呼ぶ場合が多い。

「島」も同様で、**アイランド**の意味の島だけではなく、平野の中の微高地を島と呼ぶ場合がある。**福島市**、**滋賀県高島市**、**埼玉県鶴ヶ島市**など内陸部に島が付く名の市があるのはそのためだ。平野部では、洪水対策として少しでも周囲より少しでも高い土地を選んで集落が形成されるため、そのような場所に島の付く地名が生まれた。

ひらがな表記の市町村はなぜ増えた？

1948（昭和23）年、長野県諏訪郡に**ちの町**（現茅野市）が誕生した。これが日本初のひらがな表記の自治体である。漢字では「茅野」と書くのだが、**茅**が当用漢字表になかったため、やむを得ずひらがなで表記することになったのだ。墨田区の場合（P156参照）と同じで、新しい地名を定める際には当用漢字表の字で賄うべしというお上の難癖のためだ。しかし、この方針には各方面からの反発も強く、地名の漢字についてはのちに制約しないことになり、その後、ちの町のようなひらがな表記の自治体が急増したわけではない。昭和30〜60年代に誕生したひらがな表記の自治体は青森県**むつ市**・福島県**いわき市**・宮崎県**えびの市**・茨城県**つくば市**と北海道**えりも町**・和歌山県**すさみ町**の4市2町だけである。しかし、昭和から平成に移ると、「平成の大合併」と呼ばれる市町村の統廃合が一気に進んだこともあり、ひらがな表記の自治体が相次いで各地に誕生し、その数は29市19町に増える。現在は、戦後の昭和20年代のように地名に用いる漢字が厳しく制約されているわけではない。それでは、なぜ、漢字ではなく、ひらがな表記の市町村が増えたのだろうか。

○ 難しい漢字や難しい読み方を避けるため

えびの市の場合、「えびの」とは、活火山である霧島の火山ガスの影響でススキが赤くえび色に染まる野原という意味のだが、えび色は漢字で「葡萄酒」と書き、ほとんどの人にとって書くことも読むことも難しい。そのため、市制施行以前から、地名表記には「えびの」とひらがなが使われており、市に昇格後もそのままひらがな表記が採用された。**つくば市**は、漢字では筑波と書くが、「ちくば」と誤読される恐れがあることと、ひらがなの方がシンプルで現代的であるとして、当時の茨城県知事の判断でひらがな表記にすることに決まった。千葉県**いすみ市**（夷隅）、愛知県**あま市**（海部）、三重県**いなべ市**（員弁）なども難読の漢字を避けてひらがな表記を採用している。

○ 既存の同名自治体が他の自治体を吸収合併したようなイメージを避けるため

いわき市は、平市・磐城市・勿来市・常磐市・内郷市など5市9町村の大合併によって誕生し、市の名は地域の旧国名である磐城に因んで命名された。しかし、合併した5市の一つが磐城市であり、新市名を同名の磐城市にすると、「磐城市に併合されたような印象を与える」と他の市町村が反対したため、ひらがなの「いわき」を採用した。

秋田県に**かほ市**（仁賀保）、茨城県に**かすみがうら市**（霞ヶ浦）、福井県に**あわら市**（芦原）、兵庫県に**たつの市**（龍野）、福岡県に**うきは市**（浮羽）なども、合併前の自治体の一つが漢字表記の仁賀保町、霞ヶ浦町、芦原町、龍野市、浮羽町だったため、新市名はひらがなで表記することになった。しかし、霞ヶ浦は琵琶湖に次ぐ日本第2位の湖沼であり、その知名度は高